

旬の西宮 今一番輝いている西宮の表情。とっておきのカバーストーリー

西宮のスゴ腕企業! NISHINOMIYA TECH PRIZE 2007

優れた技術力・研究開発力を有する事業所を顕彰する「西宮市優良事業所顕彰～NISHINOMIYA TECH PRIZE(ニシノミヤテックプライズ)」栄えある第1回の受賞事業所は・・・

更新日: 2008/02/25

西宮ナビ SEARCH

検索

- ▶ 地図から検索
- ▶ 駅名で検索
- ▶ カテゴリから検索
- ▶ カレンダーから検索



株式会社
阪神技術研究所

[住所] 久保町
[電話番号] 0798-33-6321
[代表取締役社長] 澤田憲作



優れた技術力 (製品)

歯科用X線フィルム及びその現像機器の開発

受賞内容

歯科用X線撮影において撮影したフィルムを、暗室を使用せずとも白昼にすばやく現像・定着できるシステムを開発し、システム用の器材を歯科医療現場に提供しています。その優れたアイデアや技術的解決方法などにより、主力製品である歯科用X線フィルムでは国内シェアの約40%を占めています。また近年では、地球温暖化対策を目標に、持続可能なクリーンエネルギーの転換と利用についての研究開発にも取り組んでいます。

バックナンバー

- ・ [西宮まちなかボランティアガイド養成講座 2010年度](#) 【2011年2月28日】
 - ・ [西宮のスゴ腕企業! NISHINOMIYA TECH PRIZE 2010](#) 【2011年2月15日】
 - ・ [ゆるりみちくさバス](#) 【2010年12月26日】
 - ・ [西宮洋菓子園遊会](#) 【2010年11月1日】
 - ・ [西宮の頼れる台所は早起き](#) 【2010年10月20日】
 - ・ [第8回和菓子まつり](#) 【2010年10月4日】
 - ・ [第14回西宮酒ぐらルネサンスと食フェア](#) 【2010年9月24日】
 - ・ [西宮船坂ビエンナーレ2010](#) 【2010年7月22日】
 - ・ [ようこそ甲子園へ 夏の高校野球開幕!](#) 【2010年6月28日】
 - ・ [トライやるウィーク2010](#) 【2010年6月3日】
- < [1](#) | [2](#) | [3](#) | [4](#) | [5](#) | [6](#) | [7](#) | [8](#) >

『考える』ということを考えさせられた



全国を飛び回ってお忙しい澤田憲作社長に代って、創業者であり、現会長でもある澤田良作さんにお話を伺った。名刺交換をさせていただくと、名刺代わりに…と頂戴したのは「考えるカレンダー」もう50年ほど続いてきた会社のカレンダーだが、2008年が最後だという。会長自身の体調もあり今年で終わる。そのカレンダーに今回の受賞を知らせる印刷物が貼ってあった。

「考える」という命名が気になりながらも、澤田さんの説明を待った。「決して自分の信仰心を押し付けるということではありませんが、古今の聖人賢者の言葉を分かりやすく解説してカレンダーに書き込んできました。考える会社でありたい。考える社員になって欲しい…そういう思いです。」



「我々は万物に生かされていて“本来無一物”ですが“天

意の具現”を志せば必要とする“現象”が“天啓やミッション”の形で無尽蔵に現れて望ましい状態を招来させると
実体験より信念としています」<考えるカレンダー2008
より>

昭和33年、歯科でのレントゲン撮影が保険適用になり、あの小さい歯科用のレントゲンフィルムが品薄となった。自分の夢を実現したいと、脱サラをしていた澤田さんは「困っておられる方がおられるのなら…」と迷うことなく歯科用X線フィルム作りに踏み切った。



現像用の袋となるビニール



この暗室でビニールをチェック



ビニールを張り合わせる

「次々とアイディアが出るんですね??」と問うと
「いえ、私が考えるのではなく、天啓なのです。そして、こうしたい…と強く願うと必ずそれを具現化するための人と出会うのです。」取材中、何度もなんども“天啓”という言葉が出てきた。

近年、MEEというNPO法人を立ち上げられた。ミニ・エネルギー・エコロジーの頭文字。身の丈サイズのエコなエネルギーの開発を目指されている。本社工場の屋上などで、小さな風車や水車での発電の実験もされ、地球温暖化に向けた取り組みにも積極的だ。

創業者手づくりのチェックの機械



きっと創業時から重宝されてきたのだろう

実は、澤田さんのお父様は建築家であり写真が趣味。澤田少年は、建築関係の工具や暗室のあった家庭環境で育っており、その生い立ちからX線フィルムづくりはそう難しいことでもなかったという。本当にやりたかった自分の夢の実現のための資金稼ぎ…という感覚で家内工業で仕事を始めたというが、その仕事が生涯の仕事となった。

「ある日突然、会社を辞めて来た…って帰ってきましたね。その時、子どもは1.5人でした（笑）でも、私は洋裁をやっていたので、当面はそれで生活すればいいからとのんきに考えていましたね～。ところが洋裁どころか、押し入れにこもって歯科用のX線フィルムを作る生活になってしまいましたよ。」と奥様が明るく笑いながら教えてくださった。

夜なべしてフィルムを作り続けたこともあったという。やがて押し入れの仕事場が、一室に暗幕を張った作業場になり、子どもは実家に預けないといけないほどになったらしい。現在の久保町の本社工場でも、まるでその当時が再現されたような仕事場があり、一つ一つ手作業での工程があった。「全ての行為は安らぎに落ち着く」という澤田さんの言葉がその部屋から聞こえてきそうな気がした。

レントゲン技師のためにと、フィルムの袋に鉛の整理番号をつけてX線撮影した画像の番号が映りこむようにして現像したフィルムの判別をやすくしたり、暗室の無い歯科医院のために明室でも現像が出来るようにと、現像液を入れやすい袋を考案したり…。



出来上がった現像用の袋

[「西宮のスゴ腕企業」のトップに戻る](#)

Google™

Google 検索

WWW を検索 nishinomiya-style.com を検索